

タカラバイオ株式会社 2024年3月期 第3四半期決算(補足資料)

1. 2024年3月期 第3四半期業績について **【決算短信9ページ】**

(売上高)

- ・ 「試薬」は、一般研究用試薬が前期比で増収となりましたが、新型コロナウイルス検査関連試薬は法令上の位置付けの変更等により需要が減少したため減収となりました。試薬全体では前期比▲294億8,000万円(▲56.2%)減収の229億8,900万円となりました。
- ・ 「機器」は、新型コロナウイルス関連需要の減少や、世界的なライフサイエンス市場の低迷を受け、PCR装置とシングルセル解析装置が減収となりました。機器全体では前期比▲4億4,200万円(▲40.9%)減収の6億3,800万円となりました。
- ・ 「受託」は、再生医療等製品関連受託で新型コロナウイルス関連品質試験などが減収となりました。遺伝子解析/検査関連受託は、国内は前期並みで推移したものの、中国での核酸合成受託が減収となりました。受託全体では、前期比▲3億円(▲6.4%)減収の43億6,900万円となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、遺伝子治療薬製造補助剤(レトロネクチン®)の大口顧客向けの販売時期の違い等により、前期比▲2億4,700万円(▲12.5%)減収の17億3,700万円となりました。
- ・ 以上により、売上高は、前期比▲304億7,100万円(▲50.6%)減収の297億3,400万円となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、主に新型コロナウイルス検査関連試薬の減収により、前期比▲183億9,200万円(▲50.5%)減益の180億4,100万円となりました。

(営業利益)

- ・ 売上総利益の減益に加え、為替レートの変動などにより、研究開発費等の販売費一般管理費が増加したため、営業利益は、前期比▲190億6,600万円(▲98.3%)減益の3億3,600万円となりました。

2. 試薬・機器事業の状況について

- ・ 新型コロナウイルス検査関連試薬は、感染症法上の位置付けの変更などに伴い需要が大きく減少しています。
- ・ 一般研究用試薬・機器は、経済不況の影響を受けた世界的なライフサイエンス研究市場の低迷により成長が鈍化しています。
- ・ 米国、欧州は、インフレの長期化や金融引締め政策などにより、企業やアカデミアの研究機関が研究開発投資に慎重になる傾向が継続しています。

- ・ 中国では、政府のアカデミア向け研究補助金が削減されていることに加え、中国企業による低価格製品の影響を受け、ライフサイエンス市場が縮小し、事業環境が厳しくなっています。
- ・ 各地域の市場回復時期は現時点では不明ですが、当社では市場環境の回復を待つだけでなく、「中期経営計画 2025」で定めた施策を着実に実施するなど、業績回復を急いでいます。

(参考: 試薬売上高)

(億円)	2023年3月期		2024年3月期	
	第3四半期	通期	第3四半期	通期 (11/9 予想)
一般研究用試薬	215	300	220	315
新型コロナウイルス 検査関連試薬	308	359	9	12
合計	524	659	229	327

3. 2024年3月期 通期業績予想について(修正なし)

【決算短信 サマリー】

(業績予想)

- ・ 通期業績は、ほぼ計画通りに推移すると見込んでおり、11月9日に発表の前回予想を据え置きます。

(売上高)

- ・ 売上高は前期比▲326億4,200万円(▲41.8%)の減収となり、455億円の予想です。

(営業利益)

- ・ 売上減少に伴う売上総利益の減益に加え、為替レートの変動などにより、研究開発費等の販売費一般管理費が増加するため、営業利益は前期比▲175億4,100万円(▲85.4%)減益の30億円となる予想です。

(期末配当予想)

- ・ 期末配当予想は、期初(5月11日)に発表した1株あたり17円を据え置きます。

以上